

(別紙3)

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ポニーの家			
○保護者評価実施期間	令和6年 9月 1日 ～ 令和6年 10月 15日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数)	1
○従業者評価実施期間	令和6年 9月 1日 ～ 令和6年 10月 15日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	令和6年10月 28日			

○ 分析結果 : 00

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	食育の一貫でクッキングを行っています。月に二回の土曜日・長期休み（春休み毎日・夏休み毎日・冬休み毎日）に子どもたちが食材に触れスタッフと調理し・自分たちが触れた食材を食べ偏食をなくそうという取り組みを行っています。（手作りおやつ提供も含む）	子どもたちと一緒にすることで、自分が作ったから食べてみようや・～さんが作ってくれたから食べてみようという意識が生まれます。	食材の買い出しに人数を決め、子どもたちと一緒に買い出しへ行き四季の食材を知る機会・提供する料理の元はどのような食材かを手で触り目で見て一緒に購入します。
2	地域の校区の子どもたちの居場所にも・・・事業所の子どもたちが一緒になって遊ぶことが出来る・地域の子どもたちが遊びに来てくれることにより、事業所の子どもたちには良い刺激を与えてもらっています。	事業所の子どもたちが、地域の公園等で活動している際に、地域の子どもたちが活動していたら、一緒に活動し時間を共有し交流を図っています。	地域の子どもたちが、気軽に立ち寄れる場所として、事業所の休みを利用して月1回事業所の代表2名と職員1名が有志で場所のみを使用して子ども食堂の運営もはじめました。9月から始まった子ども食堂で認知度はまだまだ有りませんが、地域の子どもたちの居場所にも取組んでいます。
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	若手の女性職員の確保が難しい。	家族間経営の影響もあるかと思いますが、また若い人の人材自体の確保が難しいと思われます。	給与や賞与の見直し・働きやすい環境の整備なども見直しが必要
2			
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名		ポニーの家		公表日		令和6年	10月	30日
		3	1 利用児童数		令和6年	10月	30日	1回収数
		チェック項目	はい	どちらとも いえない	6	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	1					
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	1					
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	1					
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	1					
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	1					
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。				1		現在作成中のため作成後公表と保護者への周知を図ります。
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	1					
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	1					
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	1					
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	1					
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。		1				地域のお友達と交流する際に、利用児童の利用がないなど、定期的に広報の発信を行っていく必要がある。
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	1					
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	1					
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	1					
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	1					
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	1					
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	1					
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	1					
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	1					

	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	1					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。		1			保護者には子どもの様子などの写真などはLINE等で報告と一緒に写真添付をして報告しています。	ホームページなどへの掲載はしておりません。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	1					
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	1					
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	1					
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	1					
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	1					
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	1					
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	1					
	29	事業所の支援に満足していますか。	1					

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
ポニーの家		令和6年 10月 30日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		子どもの活動スペースは70平米近くあり、子どもたちには余裕を持って活動出来るスペースがあります。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6		定員10名に対し常勤職員6名（児童発達管理責任者1・名保育士2名・児童指導員3名）・非常勤運転手専属2名の配置	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6		子どものスペース・事務所1（キッチンスペース）洗面室・事務所2（PC部屋）相談室を確保していますが、段差は2カ所あり。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		日々の活動後に掃除・塩素系での消毒を行い感染対策も行っています。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		相談等無い場合は、相談室で個別の部屋として使用。（学習・工作・クールダウン）	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6		職員会議を行うことで日々の活動の振り返りや今後の目標を話し合い業務の改善を図るようにしています。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		職員会議を行い、問題点を話し合い改善を行うよう心がけている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		職員会議を行うことで、個々の職員の思いや意見を受け止め職員全体で協議を行いながら業務に取り入れ活動につなげている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		6	外部への設置はしていませんが、社内での評価に対し改善につとめている。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		様々な研修に参加を促し、研修後のレポートを書いてもらいながら職員会議の際には報告と共有を行っています。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。		6	現在作成中	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	6		事業所内で子どもたちにニーズや目標などを話し合い保護者との面談の際に子どもたちの思いを伝え取り入れて行うようにしている。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		職員会議で共通理解を行いながら検討をおこなっています。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		共有・支援を行っています。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6			様式の変更を検討・協議を行っています。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6		5領域の狙いを踏まえ行っています。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		若手職員でチームとなり、四季に応じての外活動や室内での活動等検討し活動してもらっています。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。		6	児童にもありますが逆に固定化することによって、スムーズな活動になり次の活動に移行しやすい事もあります。	マンネリな活動にならないように工夫はしていますが居場所を最優先にしている児童も居るのでその中で出来る事は行っています。

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	6			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。		6		長期休みなど朝ら児童の利用日には、送迎が早い ため出来ないことがあり、送迎後に個々の職員につ てる事があるので、今後改善が必要
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6			
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		毎日、個別ファイルに記入・その日の出来事 や今後どうするかなどの記入が必要な事は介 入するようにしています。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		相談事業所・学校などに連携し。職員全体で 行い保護者と面談しています。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		必要に応じ、児童指導員と同行することもあり ます。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6		医療関係等の連携はまだまだむづかしいです がその他の各関係基幹での連携は随時行っ ています。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6		希望する保護者には保育園・学校進学に伴い 情報交換や・保護者との学校への見学などに 同行させて頂いています。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6			
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)				
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。		6	利用児に児童発達支援センターでの相談員が いる場合は随時連携を重ねています。	以外の児童に対しての助言を受ける機会は少 ないので今後は積極的に行いたいと思いま す。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		6		6月以降の児童発達の利用があり、まだ行えて いません。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		保護者とは常に連携を図り共通認識を持つよ うにしています。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6		保護者との連携から保護者にも支援や手帳の取得 が必要場合は保護者に促し手帳の取得のお手伝 いや、研修などの呼びかけもしています。	
保護者	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		契約の際には運営規程の説明と利用者負担額 の説明・連絡帳の選択（複写・ノート）・1日 の流れなど説明させて頂きます。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		まずは子ども優先での意見を取り入れ行います。 保護者にはその後子どもの意思を報告保護者の意 見も伺い取り入れように行っています。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	6			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		子どものことに関し、不安な事や心配事など有れば連絡 して頂き、事業所側からも気づいたことなどあれば保護 者に連絡を行い支援を行っています。	

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	6		年に2回、秋と春に保護者交流会を行っています。秋はBBQをしながらの交流会。春は喫茶店でお茶会を行い保護者同士の交流会を行っています。	
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。		6	日々の活動の中で撮った写真などはその都度保護者に写真添付しメールで個々に対応しています。	保護者の中には何名か写真で顔を隠してでも載せてほしくないと言う申し出等もありますのでSNSでの発信はしておりません。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6			
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6		地域の校区の小学校のお友達が集まってくれ、事業所のお友達との時間を過ごしています。子どもたちも良い刺激を受けいつもより活発に活動しています。また、職員が有志で事業所を借りて月に1回の子ども食堂を9月から開始したばかりですが地域の方々にはよくお声かけ頂き顔を出して頂いています。また自治体との連携もでき、交流が持っています。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6		定期的に実施を行っています。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6		年間計画をたて、計画に沿って決まった月に研修や委員会など開催しています。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6		以前は服用出来ない幼稚園や保育園もありその際は事業所で服用。その際は保護者に1回分として頂き連携を行いながらの服用を行っていました。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6		アセスメントで確認を行い、おやつ・クッキングではアレルギー食除去を行い提供・必要に応じて緊急時の薬を事業所で保管しています。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6		安全計画の予定を立て、月ごとに訓練や研修・読み合わせなどを行っています。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。		6		4月以降の安全計画を保護者に周知出来切れていないので早急に行いたいと思います。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		安全計画等でも取り入れ行っています。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		市や放課後連絡会等の研修に随時参加・虐待・身体拘束委員会時に厚労省等のビデオ等で再研修を行ったりしています。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。		6	拘束力が必要な児童がいないため	